

第3回 公立能登総合病院協議会 記録

【日 時】 平成20年11月17日（月） 午後3時30分より午後5時10分

【場 所】 公立能登総合病院 会議室（3階）

【出席者】 21名（委員 9名、当院、9名、事務局 3名）

（委員） 北原会長、松本委員、竹本委員、松木委員、山口委員、谷委員、法橋委員、佐原委員、村田委員（欠席 谷内委員、池島委員、諏訪副会長）

（当院） 川口事業管理者、藤岡病院長、谷内副院長、神野経営本部長、三室総務課長、出村管理課長、北川患者サービス課長、中江田医療情報課長、石垣地域医療連携室長

（事務局） 永畠経営管理部次長、高瀬係長、羽石主任

【内容】

1 病院事業管理者あいさつ

川口病院事業管理者

2 報告について

(1) 病院の現況報告

担当者より、資料に基づき3点報告。

<佐原委員>

赤字を圧縮し、効果が目に見える。その要因はなにか。

→ 赤字の要因として、診療報酬の引下げや医師・看護師の不足が効いている。

人件費について、平成17年度に事務が50人を超していたが、委託化し下がった。また、医療機械のメンテナンス費用の切りつめなどを行った。

<佐原委員>

能登病院としては(常勤の)麻酔科医がいないが、後どれくらい医師が必要か。

→ いくらでもほしい。60人くらいの規模があればよい診療ができると考える。

能登北部は、もっとひどい状況で能登病院に余裕ができれば、応援できる体制もとれる。広い視野で考えている。

<佐原委員>

精神科の病床利用率について、まだまだ余裕があるが。

→ 外来診療へシフトしている。現在、医師は4名いるが、4名では辛い。5人いれば、ニーズ次第で入院の受入れも可能。ただし、15対1看護基準(看護師の配置)の問題もある。

<松木委員>

出前講座は、現在も行っているのか。

- かかりつけ医の講座を行っている。昨年の9月から3月で11回約500名、今年の4月から10月で11回約400名の受講があり、昨年以上の成果が期待できる。

<谷委員>

病院は、病人をコストをかけて治している。「断食」というのがあるが、どうか。

- 10年くらい前は、東洋医学を学ぶ機会がなかったが、学ぶ機会も増えてきており、これから広まると思う。

<谷委員>

コストを下げる意味で(断食を)取り入れないか。また、アメリカのように病気を治したら何点というようにならないか。

- 診療報酬制度にないことは、してはいけない事になっている。

<佐原委員>

胃癌を治したら何点というのは、DPCの事で能登病院も取り入れたところですよ。

(財産の活用(第二病院跡地の経過)について、追加報告。)

<佐原委員>

どれくらいの利益になりますか。

- 年間約2千万円近くになります。

<法橋委員>

認知症は、精神科になりますか。

- 認知症は、精神科です。

ということは、入院ですね。

- (患者の)状態にもよりますが、妄想状態がひどい人は、入院して治療することになります。

いろいろと世話をしているが、80歳後半から90歳代が多い。また、一人暮らしをしているという人が多い。(病床に余裕がありそうなので)簡単に入れるものなら入れてほしい。

- 一度、ご家族と受診されてみては。投薬などで済む場合もあります。

3 協議事項

(1)患者サービスのあり方について

担当者より、資料に基づき2点報告。

<村田委員>

私は、ほぼ100%子供を連れて(病院へ)来ます。子供は、待ち時間が長いと我慢できないものです。その対処法を考えてほしい。プレイコーナーを設けるなど。

予約なしで来ると、待ち時間が長いのは当たり前ですが、携帯(電話)やパソコンで予約

確認、できれば予約できるようにして欲しい。

あと、トイレですが、手洗いの高さが高いため、子供の高さにあったものを設置することなどについても考えてほしい。

→ キッズコーナーやパソコンの予約確認は、前向きに取り組んでみたい。

<竹本委員>

取組みをたくさんされていて、データの的にも良くなっているのが見えた。

そのことをもっと広報してはどうでしょう。

(2) 公立病院改革プランについて

担当者より、資料に基づき報告。

<佐原委員>

(一般の)病床利用率は、低く設定されているのでは。

→ DPCを入れると在院日数が短くなる。また、入院して診療するニーズがあるかという点からカンカンづまりにはならないという予測からです。

<佐原委員>

(一般の)一日平均(入院)患者数は、低くする必要がない気がしますが。

<谷委員>

看護師が足りないという話を聞く。なぜそういうことになったのか。

→ (看護基準) 7対1をはじめる病院が増え、大学病院などへ行った経緯もある。
今年の採用試験では、第1回目で12名しか応募がない。地元に残りたがらない。
(看護学生への) 修学資金も提供し、応募者を増やす働きかけをしている。

<佐原委員>

七尾看護専門学校では、定員が40名のところ30名しか来ていない。3年くらいは、定員割れが続いている。

<谷委員>

また、頑張ってもらいたい。

4 その他

(1) 次回の開催予定

2月の中・下旬頃予定している。

5 病院長閉会あいさつ

藤岡病院長

(午後5時10分閉会)